



写真2. マングローブ湿地の埋め立て



写真1. 水が止められ枯死したヒルギダマシ

No.19

おしーのECO
ニュースレター

2012 秋

- 01-2 自主事業の活動紹介
- 03 受託事業の活動紹介
- 04 会員さんの紹介/ボランティア募集/OEC お知らせ/今後の予定



OEC TEAM

〒991-8594 秋田県大館市

沖繩の島々では、流(陸)域の雨水と排水が川や地下水となって海へ流れ出ている。それらの河口や湧水の先には、①マングローブが育ち、②海草・藻帯を経て③サンゴ礁が広がっている。①②③がセットになった潮間帯、これこそが南国の島々を特徴づける自然と環境である。ところが潮の干満で冠水と干出を繰り返すこの一帯は、埋め立てや道路や橋、護岸の建設などで、多様な生き物の生育・生息する場が消え、陸域からの赤土や農薬類、有機物などの汚濁と「ミ」で散々痛めつけられてきた。

マングローブと海草の生育域が消えた為、それらを植え、再生できるのがごく一部の人工的な場だけになった今、マングローブは潮間帯自然の邪魔者とされている。この頃、官民を挙げてサンゴの移植が盛んだ。しかし、移植後のサンゴが、あるとき突然枯死したと聞くことはあっても、それらが繁茂している様子を見たことが無い。

このことは、マングローブと海草帯が消え、島々における潮間帯自然のセットが崩れたため、サンゴの生息の場までもが危機的な状況になっている証のように思えてならない。

会長 (下地邦輝)

平成二四年度
コカ・コーラ環境教育財団寄付金事業
国場川「漫湖」の水環境改善に向けた啓発活動



写真1. 国場川河口域「漫湖」

このプロジェクトは、国場川中・上流域の学校や地域へ向けて、漫湖湿地の現状と課題について認識してもらい、「水資源」の大切さを知ってもらうため、自分たちにもできる役割について意見交換を行いながら、水質改善に向けた行動に移る事を目的に、講義と視察、簡易調査など計八時間を組み合わせた啓発活動を計画しました。

今年の四月～五月、中・上流域の各学校へ意識～ニーズ調査を行なった結果、高等学校四校、小学校一校、児童クラブ一団体の、計六団体から参加希望を受け、調整を進めながら六月よりプロジェクトを開始し、十月まで実施を行ってきました。今号では、これまで五ヶ月間の取組みを紹介いたします。



写真2. 活発な質疑応答でした

その後、五年年の中から希望者二二名が河口域(環境省 漫湖水鳥・湿地センター)の「視察」にて、マングローブ拡大や、そこに棲む底生生物の観察を終え、漫湖の重要性について学びました。生徒からは、「生き物がたくさんいた」、「ゴミが多かった」、「ポイ捨てはだめ」と感想が上がりましたが、最後はガイドからの質問に、「また来たい!」とほぼ全員が手を上げてくれました。

六月実施の小学校(五年生 一四名)「出前講座」では、当クラブ会長から「私たちが出したゴミや水はどへへ?」というテーマで講義が行われ、上流の



写真3. 水生生物調査の様子

七月に実施した漫湖上流にある高校生(一年生四名)の「実習」では、校内を流れる支流河川と長堂川の本流河川で水生生物・簡易水質・簡易ゴミ調査を体験し、汚染について自分たちで検証をしました。

◆OEC 自主事業の活動紹介 (平成 24 年 4 月～平成 24 年 10 月) ◆

校内の河川で見つかった指標生物は、ヒル、ユスリカ、チョウバエ、タイワンモノアラガイ、サカマキガイなどの生物たち(指標レベ
ルⅢ、Ⅳ)が確認され、判定は「大変汚れて
いる川」とされました。原因は、調査近く
の排水溝に流れていた敷地周辺から出る
生活排水ではないかと推測がされました。



写真 4. 調査のまとめの様子

川が汚れていたら意味がない。まずは自分
たちの足元(環境)を知ろう」と呼び掛けが
ありました。



写真 5. ゴミをカウント中

え、集計しました。そして、ゴミの量を見比
べるため、少し上の豊見城高校横、河川敷
に移動して観察を行いました。
ここでは、長い間マングローブに引っかか
り、大量に放置されており、悪臭もありま
した。ガイドから、「これ以上のゴミがきつと
海へ流されているのだから」と話がある

まとめでは、

ガイドから「最近
は、赤土やサ
ンゴの問題に積
極的な取組み
が行われるよ
うになったが、い
くら海の問題を
改善しようと

十月に実施
した分教室(高
校一～三年生
二六名)での

『実習』では、河
口域左岸にて
簡易ゴミ調査を
行い、一つずつ
ゴミの種類を数



写真 6. ぎっしりのゴミ

と、生徒た
ちはがつか
りした様子
でゴミを見
つけていまし
た。

まだまだ、私たちの見えないゴミが、至
るところに溢れていると痛感し、このあと
二日目に簡易水質調査(中流域と下流域
の汚濁について調査・比較)を終え、生徒に
は漫湖の水環境が改善されることについて
一人ひとりに考えてもらいました。



写真 7. 意見交換の様子

交換では、プログラム(講義・視察・調査)を
通して漫湖の問題を知り、自分たちにも
出来ることについて、話し合いが行われま
した。

生徒からは、「思ったよりも臭くなかつ
た」、「環境教育をもっと学ぶ・参加する」
、「学内にゴミ箱を設置し、捨てるポイント
制で景品がもらえるシステムを作る」、「ゴ
ミになりにくい発泡スチロールを開発する」
、「ネット上で漫湖の現状を発信する」など、
高校生ならではの意見やユニークな発想が
出ました。

実施後、この二校からは、学内オープン
キャンパスで今回のプログラム体験を紹介
してくれることになり、一方の学校は、各
自でプログラムを取りまとめ、夏休みの課
題研究として報告してくれました。

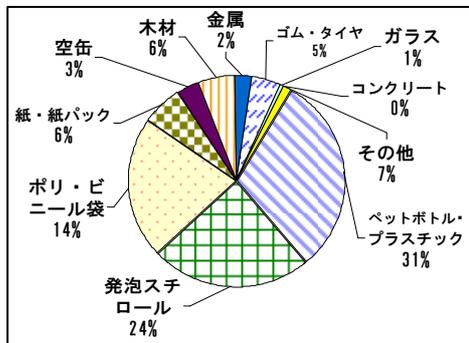


表 1.) H24.7.2 漫湖(左岸)に流れ着くゴミの組成

※1 回調査した結果、ゴミの総数は 177 個/10m
私たちの生活から出るごみが多く見られた。



写真 9. お礼の挨拶で相談し合う児童たち

最後は、「国場
川」について、これ
までを振り返り、
家族や友達にお手
紙と絵を描いて終
了。楽しいお土産
と思い出が出来き
て、子供たちも喜
んでくれました。



写真 8. アクアプランター-工作の様子

では、それぞれの科目を子供たちに合わせ
水辺環境に親しんでもらうことを目的に、
計三回、実施しました。

その最終回では、水辺植物につい
て解説を行ったあと、サキシマスオ
ウノキの種子を使った工作とペット
ボトルを再利用した水耕栽培のプ
ランター(サガリバナ鉢植え)工作を
行いました。



月一回の
「エコクラブ」
の時間とし
て受講した
児童クラブ

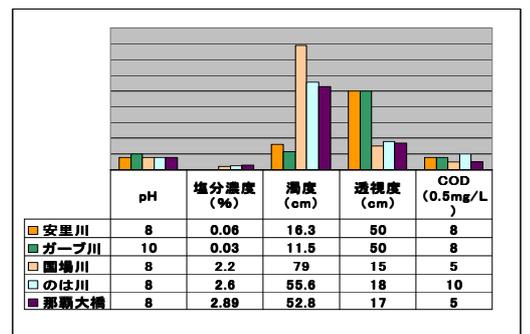


表 2.) H24.7.25 簡易水質調査 国場川・安里川

※安里川(上流)と国場川(中・下流)では、国場川
の方がごって(透視度)いた。

※国場川の各下流ポイントの中、「のは川(石火矢
橋)」が1 番汚れていた。(COD パッケージ結果)

一事業を通して

今回の事業は、講義、視察、実習、まと
め(計8時間)を組み込んだ、初めてのセツ
トプログラムとして、試行錯誤の中、課題
も多く残りました。しかし、生徒たちの発
見・感動の『気づき』を目の当たりに出来た
ことは、当クラブにとって今後の活動の励み
となりました。先生方の熱心さとご協力が
あり、実施できたものと思っています。

また、上・中流域へ向けては、漫湖の水
環境問題について「知る・理解してもらう」
積極的なきつかけ作りが、まだまだ必要だ
と痛感しました。

沖縄の自然の代表格として、亜熱帯地
域のマングローブやサンゴ礁が上げられま
すが、これらの生態系を健全に保つたため
には上流から流れ込む水質の保全が欠かせ
ません。

約四十万人が住む国場川流域の下流、
自然豊かな「漫湖」を、今一度、皆さんも
見つめ直してみませんか？

研究員 (上田絵理奈)

◆OEC 受託事業の活動紹介（平成 24 年 4 月～平成 24 年 10 月）◆

「アジア大洋州地域
熱帯・亜熱帯における
エコツーリズム企画・運営」コース



写真1. 竹富島で月桃を使ったゴザ作り体験。

の経験で、地域により、過去の歴史や文化生活感、自然感の考え方に差があり、これらを観光資源として活用するエコツーリズムでは、課題解決に向けた管理・運用の考え方やアプローチ、具体的な解決手法などに違いがあるため、今年から、アジア・大洋州地域を対象を絞り、研修を実施することになりました。

また、今回から、日本・沖縄の経験のみならず、社会・経済的背景の似通った開発途上国においてエコツーリズム推進における好事例や課題を学び、帰国後の課題解決策につなげるために、インドネシアでも二週間の研修を実施しました。

日本：沖縄では、エコツーリズムの概念や地域づくりの基礎的な考え方、エコツーリズムに係る資源調査、各種計画づくりの基礎を学びました。研修員は、屋久島のエコツアー、東村の民家宿泊体験、竹富島の集落散策と民具づくり、西表島のパッケージツアーなどの体験を通して、それぞれの国

JICA 沖縄
とOECでは、
これまでの八年
間、全世界の熱
帯・亜熱帯地域
を対象に、エコ
ツーリズム企画
・運営の研修
を提供してきま
した。これまで

に欠けている具体的なアイデアがたくさん見つかったようです。そして、インドネシアに渡航する前に、それぞれがエコツアープログラム・リーフレット、人材育成計画、アクションプランのドラフト版を作成し、過去にこの研修に参加した先輩（帰国研修員）との意見交換に備えました。



写真2. 仲間同士の議論は、時に白熱し、互いに切磋琢磨する場面も。

インドネシア
研修は、森林省
本部でインドネ
シアの国立公園
制度やエコツー
リズムの概要を
学んだ後、四箇
所の国立公園の
訪問をおこない
ました。インド

ネシア研修をアレンジした森林省職員（帰国研修員）は、日本・沖縄で学んだ研修の成果を活かし、各国立公園のエコツアー商品のパッケージ化、および既存ツアー商品の強化を試み、それぞれ地域との連携で、保全活動と経済的なサイクルを作り出すことに成功を収めていることが分かりました。特に、アクションプランと関連した帰国研修員の活動を直に体験し話を聞くことは、研修効果をより一層高めることが確認でき、現研修員と帰国研修員の真剣な討議がたいへん印象的でした。

人づくり・人材育成事業は、すぐに成果が見えない仕事ですが、今回、私たちの研修が少しでも現地の方々のお役に立っていることが分かり、引き続き、沖縄の皆さんと共に一緒に学べる場を提供し続けていきたい、と強く感じました。



写真3. 帰国研修員の一人が所属するGunung Gede Pangrango 国立公園は、青年海外協力隊や地元NGOとの地域連携で活動が展開されており、関係者間の信頼関係を強く感じました。



写真4. Kepulauan Seribu 国立公園では、島の環境を活かしたマングローブの植樹やサンゴの移植などの体験を通して、島への経済的な還元と保全活動のバランスについて学びました。

「熱帯・亜熱帯における
エコツーリズム企画・運営」ベトナム
社会主義共和国特設コース」

事務局長（吉田透）

近年、経済成長を遂げるベトナムにおいて、観光業を通じた地域開発振興や産業振興をもたらす取組みのひとつに「エコツーリズム」が脚光を浴びています。

JICA 沖縄とおきなわ環境クラブは、JICAベトナム事務所への要請により、初めて対象を一国に絞った研修を実施しました。同一国からの参加であっても、地域によりエコツーリズム資源の開発方法や速度に違いがあり、研修員同士が意見交換できる良い機会となりました。



写真1. 富士山の青木ヶ原樹海を歩き、樹海の成り立ちや生命力の強さを肌で感じました。多くの観光客が立ち入るこの樹海で、自然資源の活用と保護のバランスについて勉強しながら、ガイドのインタープリテーションについても学ぶことが出来ました。



写真2. 研修員の所属組織が抱える具体的な課題解決のために、関係者や問題、目的についてロジカルに分析を行いました。積極的に、熱く討論を交わせただけでなく、アクションプランの作成にも大いに役立ちました。



写真3. 林業が盛んな飯能市ならではの素材の活用として、杉の葉を利用した染め物を体験しました。地域の方と交流しながら季節の食材を取り入れた食事をいただくことで、地域住民主体となって提供するプログラムのホスピタリティーの高さを実感出来たようです。

研修員は日本での研修を通し、改めて自国の資源についての大きな可能性を実感出来た様子で、帰国後の活動の原動力になることが期待されます。

ベトナムと日本は自然環境や文化に多くの共通点があり、類似した課題も抱えているため、今後も対象国と相互理解を深めながら研修に携わりたいと考えています。

研究員（余田幸和美）

◆OEC 自主事業・寄付金事業

5/12~11/17	第 20～23 回国場川サガリバナお手入れワークショップ 場所:国場川右岸河川敷 漫湖公園ジョギングロード沿い
5 月～10 月	コカ・コーラ環境・教育財団 国場川「漫湖」の水環境改善に向けた啓発活動(6 団体) 場所:国場川周辺、環境省 漫湖水鳥・湿地センター
10 / 29	北玉冒険エコクラブ アクアプランター工作 場所:北玉児童館
11 / 4	おきなわアジェンダ 21 県民環境フェア in 名護 OEC ブース出展 場所:名護市民会館前広場
11/10-11	JICA 国際協力・交流フェスティバル 2012 OEC ブース出展 場所:JICA 沖縄国際センター
12 / 8	第 18 回 国場川水あしび OEC ブース出展、自然体験型ゲーム実施 場所:環境省 漫湖水鳥・湿地センター

◆OEC 受託事業 独立行政法人国際協力機構(JICA)沖縄国際センター

4/16~7/6	地域別研修 アジア大洋州地域 熱帯・亜熱帯エコツーリズム企画運営 12 週間 場所:沖縄県内・県外各地及びインドネシア各地 人数:7 名
7/23~8/31	地域別研修 課題解決促進型 アジア・大洋州地域 熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画運営 ベトナム社会主義共和国 特設コース 6 週間 場所:沖縄県内・県外各地 人数:6 名
9/3~10/12	地域別研修 アフリカ地域 持続可能な観光開発(自然及び文化観光開発)TICAD IV フォローアップ(A) 7 週間 場所:沖縄県内・県外各地 人数:10 名
9/10~11/2	地域別研修 島嶼国水産普及員養成コース 8 週間 場所:沖縄県内・県外各地及びサモア・フィジー各地 人数:7 名
10/1~11/30	地域別研修 中南米地域 熱帯・亜熱帯エコツーリズム企画運営 9 週間 場所:沖縄県内・県外各地 人数:10 名



Q:OECでやってみたいことは?
いつか、サガリバナ並木の観賞会が漫湖河川敷で開催されることを期待し、そのときは是非、参加したいと思つていゝきつと、見事な花見ができると思つので楽しみに!

Q:好きなことや続けていることは?
料理・花・植物・水泳(夏は週一で海に泳ぎへ行くことも!)
また、那覇市(地域)のゴミ分別活動も積極的に参加している。三日に一回はゴミ箱ステーションで分別の指導をしている。

Q:OECに入ったきっかけは?
漫湖公園でジョギングをしていて、サガリバナの香りに誘われ、誰が植えて(手入れして)いるのだろうか?と気になつていたとき、たまたま新聞告知でワークショップの募集を見つけ、参加したのがきっかけ。



お名前 砂川ヨシ子さん
お住まい 那覇市
会員年数 3 年

會員さんの紹介

平成二四年十一月に
新体制
役員の変更をしました。

理事長(会長)	下地 邦輝
理事	屋宜 マサ子
理事	石井 周
理事	吉田 透
理事	上田 絵理奈
理事	立田 亜由美
監事	新城 安哲

これからもよろしくお願い致します。

OEC 役員が変わりました



(写真:台風の爪痕様子)

サガリバナと海浜植物のお手入れワークショップ
二ヶ月に一回、サガリバナのお手入れ活動に目を向けてもらうことを目的とし活動を行っています。
今年の台風一七号、二十一号は、サガリバナに大打撃を与えました。塩害で枯れ中には根こそぎ倒されている木も。会員さんからは、同じことが起きないように、支柱を立てて保護しよう、と声が上がリ、来年皆さんと計画できればという思いです。是非、私たちと一緒に活動しませんか? ご参加、お待ちしております。

ボランティア募集

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ
<http://www.npo-oec.com/>

自然と環境の保全是足元から!

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人の NPO/NGO 団体です。

〒902-0075 沖縄県那覇市国場 370-107
TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473
e-mail :kokuba@npo-oec.com



◆JICA 沖縄 研修員受入事業
・持続可能な観光開発(カリコム諸国)七週間
・島嶼水環境の保全と管理 八週間
・アフリカ地域 持続可能な観光開発 TICAD
IV フォローアップ(B)二週間

【時間】午前十時～十二時
※日程が変更になる場合もありますので、詳しくはお問合せ下さい。
※用具はOECで用意いたします。

【日程】
第二四回 一月十二日(土)
第二五回 三月九日(土)

◆国場川右岸河川敷
サガリバナと海浜植物のお手入れワークショップ
(二か月に一回、第二土曜を予定)

自主事業

今後の予定